

## 第9章 将来ビジョン

### 9.1 目指す将来像

本市の現況、計画策定にあたっての社会、経済、環境に関する地域課題、および市民・事業者へのアンケートを踏まえ、2050年の目指す将来像と4つの事業構想を整理しました。



図 目指す将来像と事業構想

### 9.2 先導エリアにおける領域横断・特色ある事業構想の推進

次頁に、エリア別の事業構想について、事業目的、事業イメージ、取組展開イメージをそれぞれ整理しました。

① 海洋・港エリア

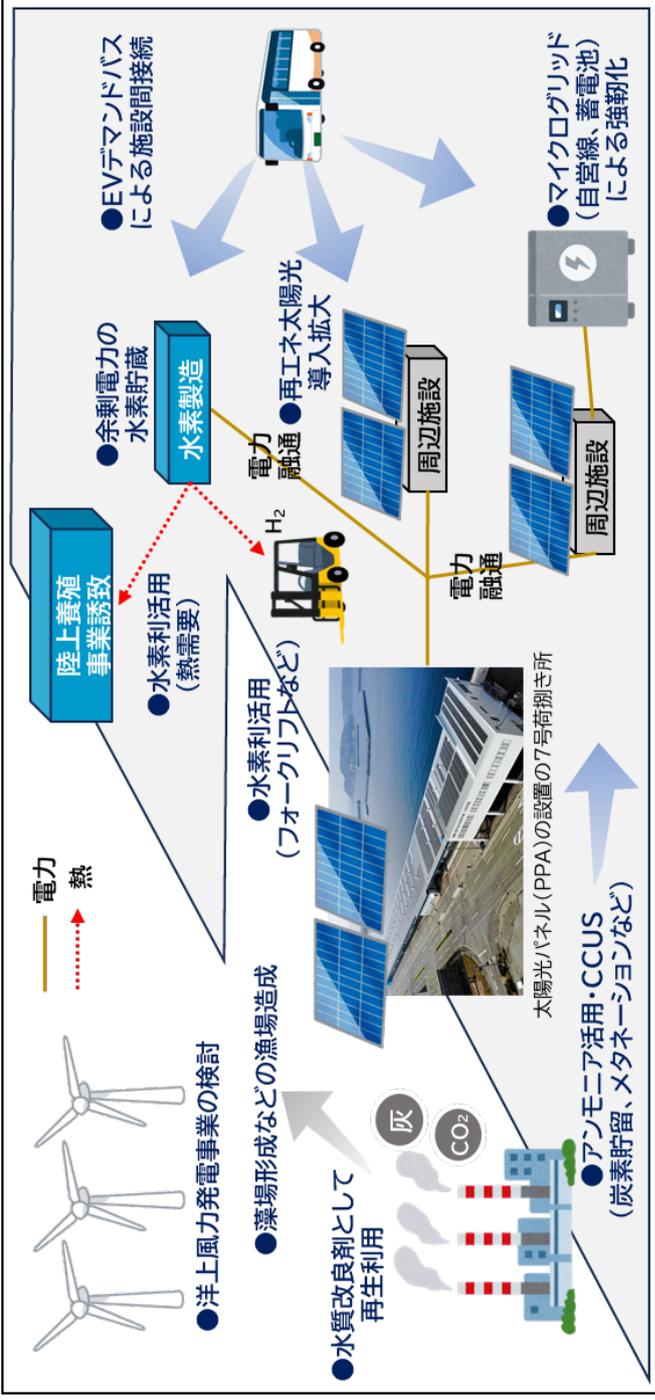
地域と水産業の活性化に資するゼロカーボン漁港

事業構想

事業目的

浜田港や浜田漁港の脱炭素化とブルーカーボン、スマート漁業を進め、水産業振興を目指す

事業イメージ



短期

- 漁港関連施設への再生可能エネルギー(太陽光など)の導入拡大(エネルギー地産地消を通じた地域経済循環の拡大)
- 灰を水質改良剤として再生利用し、藻場形成などの漁場造成

中期

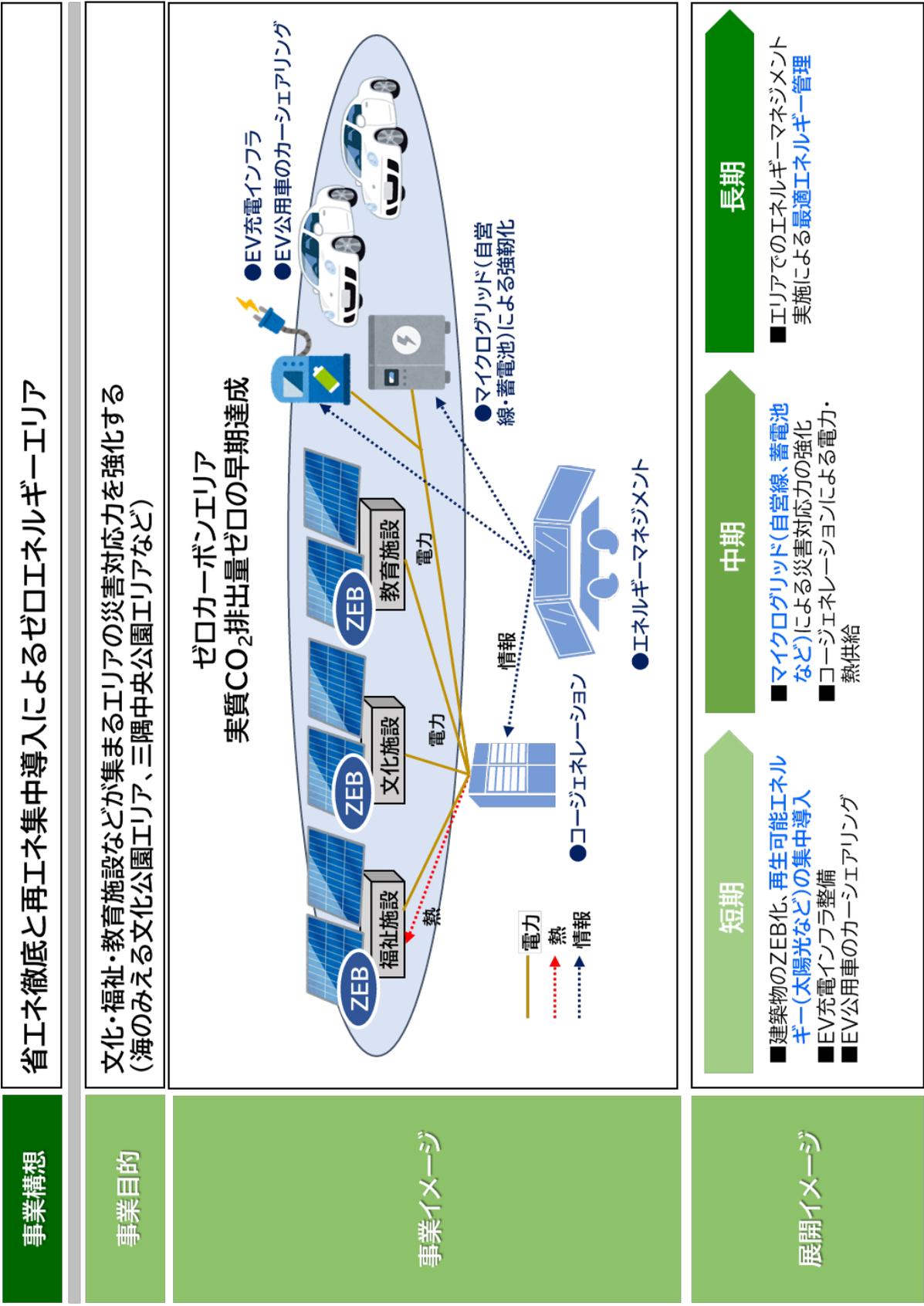
- 漁港エリアでのマイクログリッド(自営線、蓄電池など)による強朝化
- 地域振興・観光振興のためのEVデマンドバスなどによる施設間接続

長期

- 再生可能エネルギー(太陽光、陸上・洋上風力発電)の余剰電力などを活用した水素貯蔵及び水素利用(フォークリフトなど)
- アンモニア活用・CCUS(炭素貯留、メタネーションなど)



③大規模公園エリア



#### ④火力発電所エリア

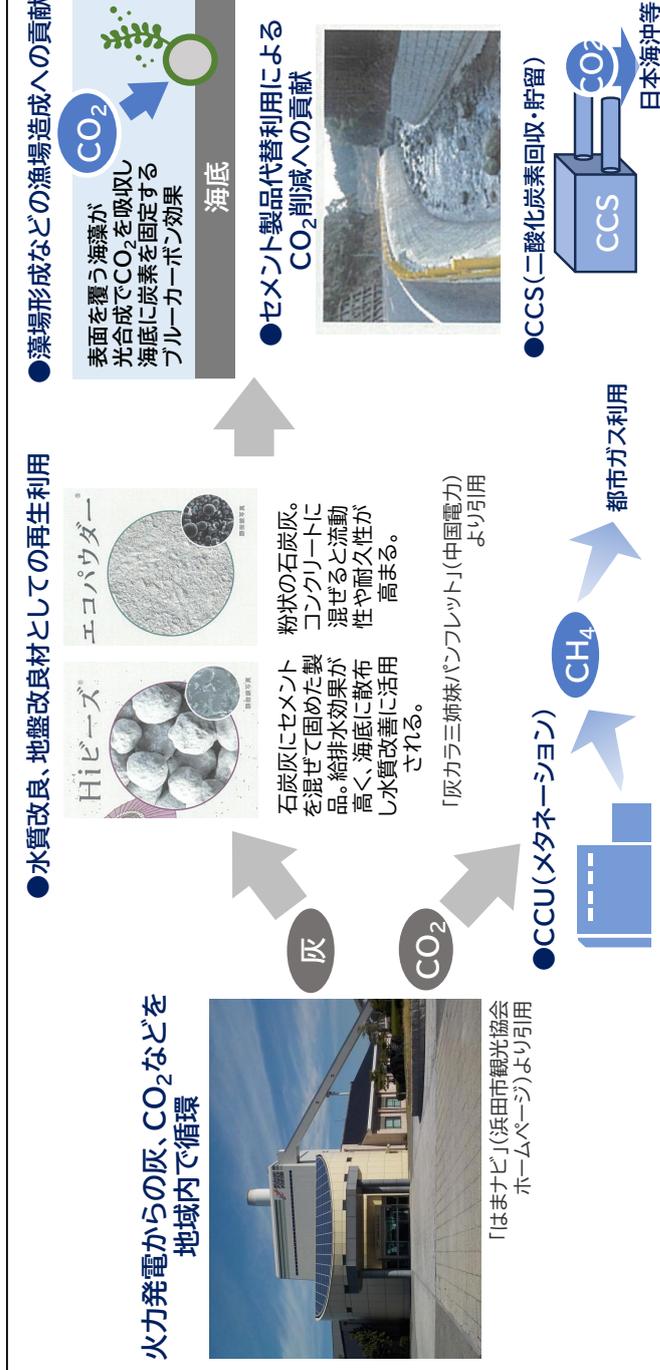
### 事業構想

## 火力発電所排出物を活用した循環型サプライチェーン構築

### 事業目的

国内最大級の火力発電所の排出物(CO<sub>2</sub>、灰など)を利活用して、循環型サプライチェーンを形成する

### 事業イメージ



### 短期

- 火力発電からの灰を再生利用した水質改良、地盤改良材を用いて藻場形成などの漁場造成、CO<sub>2</sub>削減

### 中期

- 火力発電から排出されるCO<sub>2</sub>の活用検討(メタネーション、貯留)

### 長期

- CCUSプロジェクトの実装

### 9.3 領域横断・特色ある事業構想を推進するための組織体制・事業スキーム

各事業構想の具体的な検討および推進にあたっては、主体となる事業者、関係企業との連携、行政関係課との連携により、地域に裨益するモデル検討、推進、支援などを進めていく必要があります。

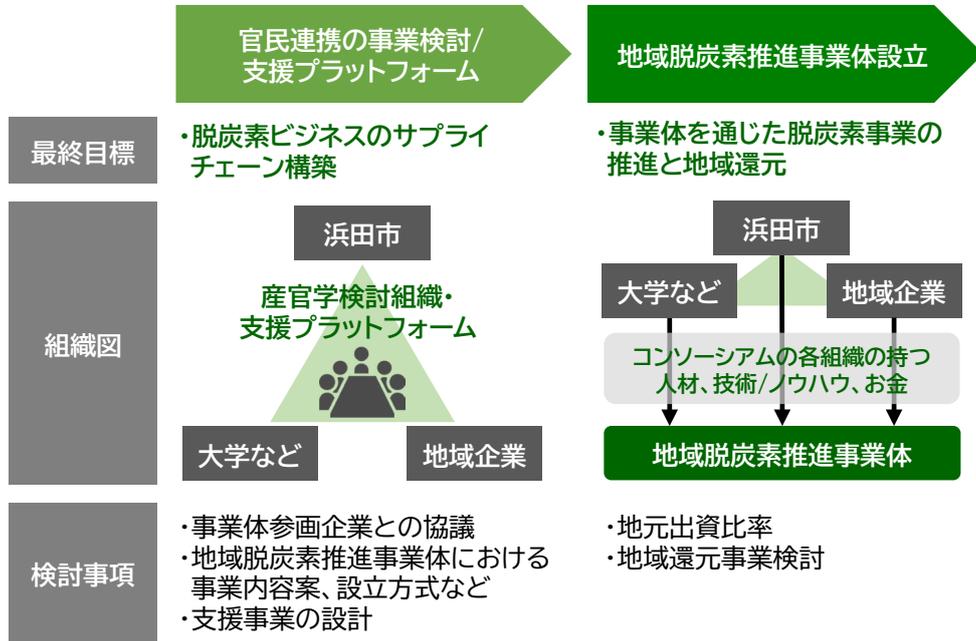


図 産官学連携の支援組織、地域脱炭素推進事業体の目的と検討事項イメージ

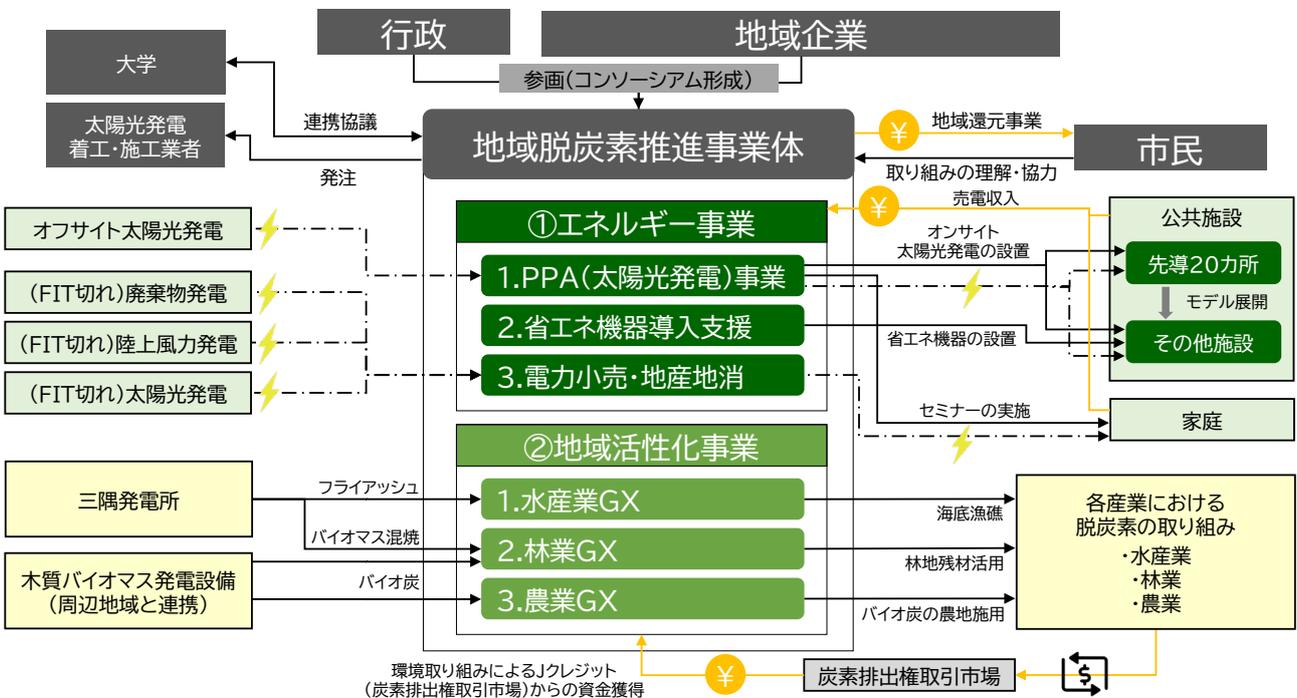


図 官民連携の地域脱炭素推進事業体の事業スキーム(イメージ)